

通級による指導の実際

1 通級による指導とは

「**大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級**で受けながら、**一部、障害に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）**で受ける指導形態で、**障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服するため**に行う、特別支援学校学習指導要領の『**自立活動**』に相当する指導」のこと。

○ 通級による指導のポイント

①指導対象及び時数

<指導対象>

- ・通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。
- ・医学的な診断の有無のみにとらわれることのないよう留意し、総合的な見地から判断する。

<指導時数>

- ・週に1～8単位時間（ただしLD及びADHDは、月に1～8単位時間）の指導を行う。

②対象となる障がい種

- ・言語障害者
- ・自閉症者
- ・情緒障害者
- ・弱視者
- ・難聴者
- ・学習障害者（LD）
- ・注意欠陥多動性障害者（ADHD）
- ・肢体不自由、病弱及び身体虚弱



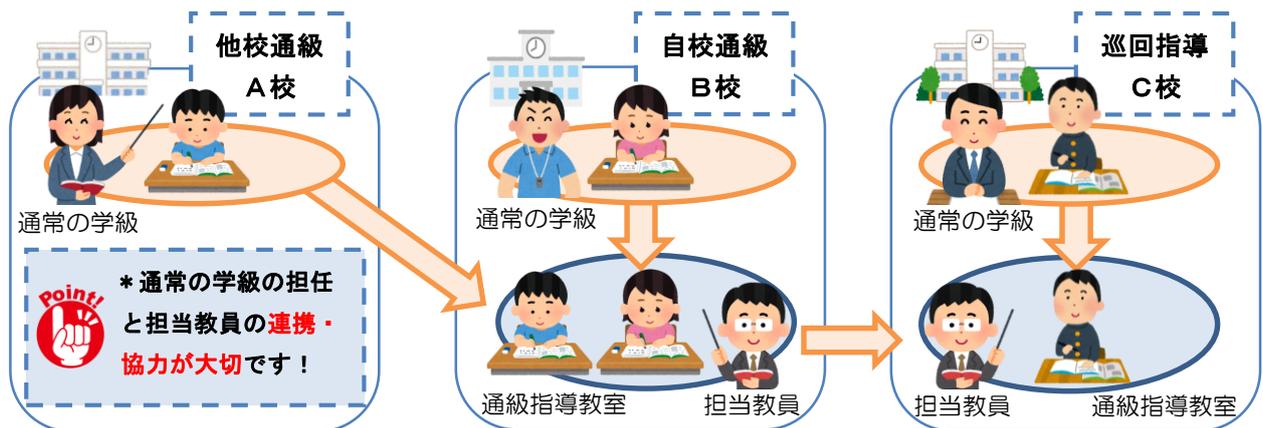
\*単なる各教科の遅れを補充するための指導とはならないようにしなければなりません。  
\*知的障害者は、一定の時間のみ取り出して行う教育形態はなじまないため、対象ではありません。

出典：改訂第3版「障害に応じた通級による指導の手引  
●解説とQ&A●」文部科学省（平成30年8月）

2 「通級による指導」の実施形態について

○ 通級による指導における実施形態の概要

形態	他校通級	自校通級	巡回指導
説明	・他の学校に通級し、通級による指導の担当教員（以下、「担当教員」という。）から指導を受ける。	・対象となる児童生徒（以下、「対象者」という。）が、在籍する学校において指導を受ける。	・担当教員が対象者のいる学校に赴き、又は複数の学校を巡回して指導する。



—文部科学省発行の参考資料—

❖初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド

初心者の方にも分かりやすい内容及び構成となっています。



❖改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引-解説とQ&A

通級による指導の法的な位置付けが、まとめられています。



### 3 通級による指導の実際

担当教員の一週間の時間割、一単位時間の指導及び通級による指導を担当するに当たって意識していることについて、担当教員へのインタビューを通したQ&A形式で紹介します。



Q 一週間の担当時数を教えてください。

A 私は、一週間に平均して20時間程度、左下の時間割のような授業を担当しています。



担当教員

担当教員のとある一日（例）

時間	担当
1	自校通級
2	移動、授業準備
3	巡回指導
4	巡回指導
5	移動、授業準備
6	他校通級
放課後	グループ
放課後	記録作成

自校：自校児童への指導  
 移動：巡回先校に移動  
 巡回：他校に出向いて指導  
 他校：他校児童が自校に来校して指導  
 グループ：指導目標や実態が、複数人での指導が有効な場合にのみ設定



\* 巡回をメインで回る教員と自校をメインで担当する教員など、**担当や役割を分担**しています。  
 \* 担当教員同士で、**教材や指導実践事例を共有**しています。  
 \* 通級指導により**達成する目標を、保護者や本人と共有**した上で指導を開始します。

○ 通級指導を終了する場合には、通級指導の回数を減らしたり、在籍学級での支援を実施したりできるよう、適宜、計画を見直したりするなど、段階的に行うことが大切です。



Q どんな指導をしているのですか。

A 必要な指導は児童により異なることから、実態把握に基づき目標と内容を考えて指導しています。



担当教員

一単位時間の指導展開（例）

#### 主な学習活動

#### 指導上の留意点

導入	カレンダーワーク 振り返りシートに記入	・振り返りシートで、活動が終わり次第、 <b>その都度振り返り</b> を行う。
展開	活動①おはなし「自由会話」 活動②やってみよう「意見発表」 活動③よく見てね「音読」 活動④みんなでゲーム「トランプ」 活動⑤体を動かそう「トランポリン」	・集中力が持続するよう、 <b>5分程度で次の活動に移行</b> する。 ・課題への取り組み状況を鑑み、課題の <b>難易度を段階的に上げる</b> 。 ・ <b>様々な活動にバランスよく</b> 取り組む。
終末	振り返り	・結果のみならず、 <b>取り組む姿勢や過程を認める</b> 。



Q どんなことを心掛けていますか。

A 児童にとって「来て良かった。」、「また来たい。」と思える場所を目指しています。



担当教員



\* 通級指導教室での頑張りが成長を学級担任へ伝えたり、学級での頑張りを通級指導教室でも褒めたりするなど、**子どもを中心とした学級担任との連携・協力**を図っています。  
 \* 困難さを改善又は克服するだけでなく、**向き合えるようにすることが大切**です。困難さにばかりに目を向けずに、ほかのことができるようになることで**意欲を高める**ことも期待できます。  
 \* 通級による指導を受けている子どもは、学習上又は生活上の困難さから叱られることが多く、自信がない子どももいるので、**子どものありのままを受容する関わり方**を心掛けています。